

製品名: CD79a ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08454**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	25kDa

抗原情報

遺伝子名	CD79A CD79A; IGA; MB1; B-cell antigen receptor complex-associated protein alpha chain; Ig-alpha;
別名	MB-1 membrane glycoprotein; Membrane-bound immunoglobulin-associated protein; Surface IgM-associated protein; CD antigen CD79a
遺伝子 ID	973.0
SwissProt ID	P11912
免疫原	抗血清はヒト CD79A 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 141-190

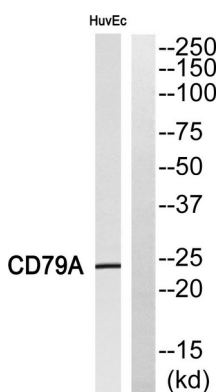
背景

Bリンパ球抗原受容体は、抗原特異的成分である表面免疫グロブリン (Ig) を含む多量体複合体です。表面 Ig は、B 細胞抗原受容体の発現と機能に必要な 2 つのタンパク質、Ig- α および Ig- β と非共有結合的に会合します。この遺伝子は、B 細胞抗原成分の Ig- α タンパク質をコードします。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患: CD79A の欠陥は、非ブルトン型無ガンマグロブリン血症の原因です [MIM:601495]。無ガンマグロブリン血症は、B 細胞の成熟経路における発達異常を引き起こす免疫不全疾患です。イントロン 2 のスプライスドナー部位とエクソン 3 のスプライスアクセプター部位の 2 つの異なる変異が同定されています。両方の変異により、短縮されたタンパク質が生成されます。機能:CD79B と連携して、抗原が B 細胞抗原受容体複合体 (BCR) に結合することで活性化されるシグナル伝達カスケードの開始に必要です。これにより、複合体の内部移行、後期エンドソームへの輸送、および抗原提示が起こります。また、BCR の表面発現と、プロ B 細胞およびプレ B 細胞の効率的な分化にも必要です。SYK の自己リン酸化と活性化を刺激します。BLNK に結合して BLNK を SYK に近づけ、SYK が BLNK をリン酸化できるようにします。また、いくつかの Src ファミリー チロシン キナーゼと相互作用してその活性を高めます。未熟 B 細胞の発達中に BCR シグナル伝達を抑制します。、オンライン情報:CD79A 変異 db,PTM:B 細胞の活性化時にチロシン、セリン、およびスレオニン残基がリン酸化されます。Src ファミリーキナーゼによるチロシン残基のリン酸化は、BCR シグナル伝達カスケードの初期の重要な特徴です。リン酸化チロシンは、SH2 ドメインを含むキナーゼのドッキング部位として機能し、それらの活性化につながり、その結果、下流の標的のリン酸化につながります。セリンおよびスレオニン残基のリン酸化は、その後のチロシンリン酸化を阻害する可能性があります。、類似性: 1 つの Ig 様 C2 型 (免疫グロブリン様) ドメインを含みます。、類似性: 1 つの ITAM ドメインを含みます。、細胞内局在: 抗原結合後、BCR は細胞膜の界面活性剤可溶性領域から脂質ラフトへ移行することが示されているが、複合体を介したシグナル伝達は脂質ラフトの外でも起こり得る。、サブユニット: α 鎖と β 鎖のヘテロ二量体で、ジスルフィド結合しています。B 細胞抗原受容体複合体の一部であり、 α/β 鎖ヘテロダイマーが、2 本の重鎖と 2 本の軽鎖からなる抗原特異的膜結合型表面免疫グロブリンと非共有結合している。リン酸化 ITAM ドメインを介して SYK の SH2 ドメインと相互作用し、SYK の自己リン酸化と活性化を刺激する。また、Tyr-210 がリン酸化されると、BLNK/SLP65 の SH2 ドメインと相互作用し、BLNK を SYK に近接させ、SYK による BLNK のリン酸化を可能にする。これは BCR の後期エンドソームへの輸送に必要である。FYN および LYN を含む Src ファミリーチロシンキナーゼと相互作用し、それらの活性を高める。、組織特異性: B 細胞。、

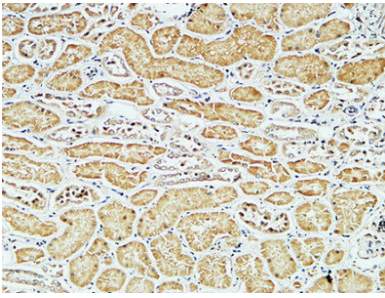
研究分野

B 細胞抗原;原発性免疫不全症;

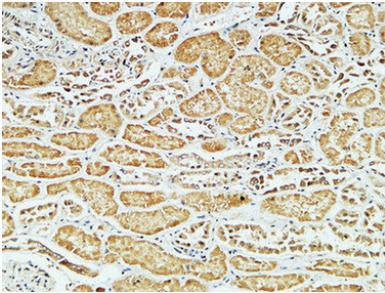
画像データ



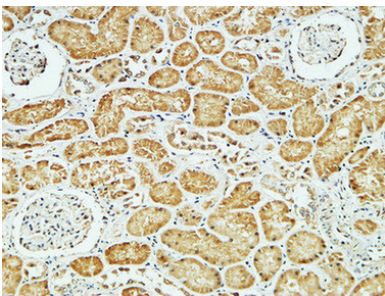
CD79A 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンは CD79A ペプチドでブロッキングされている。



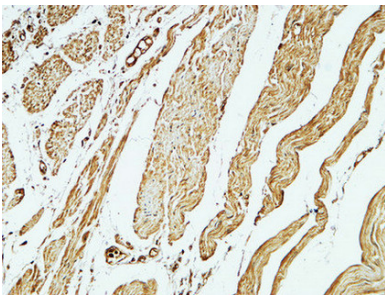
パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



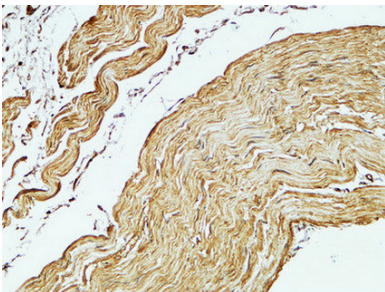
パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



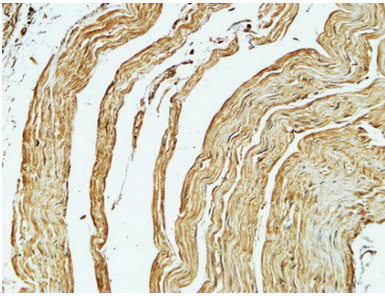
パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



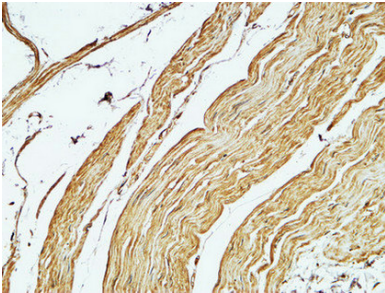
パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。